

ところのIRを積極的に行うことにより、市民・議員・職員の三者間に連帯感と良い意味での緊張感が生まれ、市政が良い方向に進むと確信しています。そのためマスタープランを作つて着手していきたいと思つては、かなり大胆なものが必要ですが、実施に当たつては細心の注意をもって優先順位を付け、「着眼大局、着手小局」という言葉のとおり、市民、議員、職員各位の理解が得られる形で着実に実行しなければなりません。

教育長 第一に安全安心の学校や施設づくり、第二に園児、児童、生徒、市民の学習ニーズを的確にとらえて、いろんな方向から対応できる教育です。第三には、加西の幼稚園や小学校、中学校についてのグラウンドデザインをつくり、市民の皆様や議員各位のお考えと調整しながらよりよいものにまとめていきたいと思つています。第四に、視察者が多く訪れる学校を目指したいと思つています。いい学校を示す指標はいろいろありますが、視察者が多いというのが一つの目安です。第五に、

これまで、義務教育はどこにいても同じ教育が受けられることがよいことだとされてきました。これは今でもよいことですが、もつと各学校が特色を出し合い、その特色をみて学校を選べる、そんなふうにならないだろうかと思つています。生涯スポーツ、生涯学習、文化財の保護と活用などについて話すことはできませんでしたが、一層充実させていきたいと思つています。

助役 それは、私も同感で、今回中川市政において、実際に改革を成し遂げることによつて、いろんな分野において、全国の各市から加西市に視察にいらつしやる、そうすることによつて職員もさらには市民や議員の方も、加西市民であることに誇りを持つていただけると思つています。それが私の夢です。

市長 先送りされてきた問題を前倒して片付けるとともに、平成18年度も新たな取り組みをしていきたいと思つています。力を合わせて市民のためにがんばりましょう。どうぞよろしくお願ひします。

経営改革委員会から 中間答申



加西市経営改革委員会は、

中川市長の呼びかけに応じ、市内の会社経営者や主婦ら民間人10数名で構成される市長の諮問機関です。昨年9月に発足して以来、これまで5回の会議が行われました。全員が無報酬で委員を引き受け、概ね月1回テーマを決め、それぞれ委員が仕事を終える夜間に熱心な議論を展開しています。

12月21日(水)に開催された同委員会において千石唯司会長から中川市長宛に中間答申が出されました。

1 三洋電機工場 跡地について

加西市の上位計画と合致する利用計画を含め、跡地利用について独自提案を考へる意向があることを三洋電機側に表明した上で、加西市のみならず周辺地域の将来にとって望ましい利用のあり方について、早期実現に向けて民間と共同による跡地利用計画に関するプロジェクトチームを早急に立ち上げることを。

設立から20年を経過し、鉄道対策基金の枯渇が見込まれる状況において、3年以内に存廃の方向性を見極めること。存続については北条鉄道の存続目的を明確に市民に示し、取締役会を中心に運営と経営に関する中長期の計画を策定すること。計画の実施にあたってはP D C Aサイクルを基本とする4半期ごとの見直しを行うこと。



2 北条鉄道について

私からそれぞれ委員就任をお願いしましたが、殆んど全員の委員さんとは、市長就任まで面識はありませんでした。市民・納税者の立場から各委員さんが、加西市の5年・10年先を見据えて率直な意見を述べていただけると、大変参考になり感謝しています。中間答申の内容を真摯に受け止め、今後、各方面の意見も拝聴しながら行政運営に生かしていきます。



3 老朽校舎の建替 について

児童・生徒数の減少に伴う

教育環境の整備及び学校教育の充実を目的として、加西市立小中学校・幼稚園及び保育園の適正規模及び適正配置に関する基本的な考えと今後の老朽校舎の建替計画と連動したその具体的方策を明らかにするために、市域における学校適正規模、適正配置を諮問する審議会を設置すること。その間の学校改革に係る計画は一時凍結し、答申を踏まえて改築の是非を問うこと。



市長コメント

私からそれぞれ委員就任をお願いしましたが、殆んど全員の委員さんとは、市長就任まで面識はありませんでした。市民・納税者の立場から各委員さんが、加西市の5年・10年先を見据えて率直な意見を述べていただけると、大変参考になり感謝しています。中間答申の内容を真摯に受け止め、今後、各方面の意見も拝聴しながら行政運営に生かしていきます。